

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 6 回高松市競輪事業検討委員会
開催日時	平成 3 0 年 6 月 2 8 日（木） 1 3 時 3 0 分～ 1 6 時
開催場所	高松競輪場研修室
議 題	( 1 ) 評価基準に基づく施設の代替案について ( 2 ) 競輪関係者等からの意見聴取について ( 3 ) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	石川委員、板谷委員、七條委員、西村委員、万野委員、 矢野委員、米澤委員
傍 聴 者	1 4 人（定員 1 0 人）
担当課及び 連絡先	競輪場事業課庶務係    8 5 1 - 5 0 3 6

### 会議の経過及び結果

#### ・ 会議の公開について

本日の会議については、個人情報等の非公開となるような事項の審議は想定されないことから、公開とすることとした。

#### ( 1 ) 評価基準に基づく施設の代替案について

事務局から、資料を基に説明し、委員から意見や質問等を求めた。

- ・ 高松競輪場保有資産
- ・ 施設改修の実現性【改修基本パターン別】
- ・ 施設改修スケジュール
- ・ 競輪事業収支見通し【改修基本パターン別】

(石川委員)

保有資産について、土地だけで、固定資産税としてはいくらになるのか。

(事務局)

4 8 億円の資産に対し、年間約 4 , 7 0 0 万円である。

(石川委員)

市が保有していることで、市の税収入としては減である。収支見通しで、市債返済期間が8年と9年があるが、返済の最終年度を合わせたのか。また、工事の経過はそれぞれ異なるが、存続するとすれば、何年くらい使用期間が延びるのか。

(事務局)

市債の借入れについては、3年据え置き、10年償還でそれぞれ試算しており、返済最終年度を合わせているわけではない。借入れ時期がずれることで、償還期間もずれている。

また、使用期間について、新築であれば、建物自体の寿命は延びるであろうが、耐震補強であれば、10年から15年程度であると思われる。

(米澤委員)

確かに耐震によって建物の寿命自体は延びない。防水改修等のメンテナンスをしながら、使用することになる。メンテナンス費用については考慮しているのか。

(事務局)

考慮している。改修については、今もその都度、優先順位をつけて対応しているが、大規模修繕のようなものは見込んでいない。

(石川委員)

キャッシュフローは、15年くらいで見ておけば良いかと思う。また、キャッシュフローの累計なりリスク率を出しておいた方が達成感がある。

(板谷委員長)

約15年が商業上、効果が有効な期間であろう。土地の売却した場合が48億円であるが、建物解体費用はいくらだったか。

(事務局)

解体に約13億円、その他システムなどのリース契約違約金として最大約7億円である。

(石川委員)

契約期間前にやめるというのは、いつまで使用すると無くなるというものではないのか。

(事務局)

5年・3年のスパンで契約している。委託業務毎にばらつきがある。最大で7億と試算している。

(矢野委員)

1年毎の契約は可能か。

(事務局)

可能である。費用や補償的な面から、5年・3年の契約が通常となっているが、1年毎の契約についても考えていくべきであろう。

(矢野委員)

計画に基づいて、契約期間を合わせていくことも考えていく必要があるのではないか。

(板谷委員長)

改修存続となった場合でも、契約期間については、将来を踏まえて検討すべきであろう。

(万野委員)

耐震補強以外のメンテナンスについて、年間どれくらい実施しているのか。また、費用面について。

(事務局)

計画立てて実施しているわけではなく、年間3,000万円程度を予算化して、その都度対応しているほか、緊急性のあるものを優先的に実施している。早い段階で基金を設立し、施設改修に対応できる財源を確保すべきであっただろうが、今後は計画的に実施していきたいと考えている。

(板谷委員長)

前回の意見であった、トイレ改修などの施設内装改修などオプション費用について。

(事務局)

いろいろなパターンが考えられると思うが、例えばチータカ広場であれば、現遊具等の改修のみなら約1,000万円、芝生広場を含む全体のリニューアルであれば約9,000万円から1億円、中央スタンドの内装等の改修であれば約8,000万円から9,000万円となる。ま

た、コンビニを誘致するとなると、電気系統の配線費用などが見込まれる。

(板谷委員長)

内容によるが、数千万円から3億円程度になる。また、施設改修パターン1と2について、どう思うか。3以降はシステム改修に多額の費用がかかり、財政的に厳しいと思われる。1と2の違いは西スタンドを残すかどうかである。風の影響の問題もあるが。

(万野委員)

西スタンドは、年間どれくらいの利用者がいるのか。

(事務局)

利用者数は把握できていないが、西駐車場から近いこともあり、日々、一定の利用がある。愛着のある席を利用している方が多いようである。

(矢野委員)

西スタンドを撤去した場合、メリットとして施設がコンパクトになり、維持管理費が削減できるとあるが、削減効果と撤去費用を比べたらどうなのか。耐震のみであれば、当面の資金的には楽であろうが、修繕費用等の維持管理費用が必要になるとと思われる。

(事務局)

確かに耐震補強のみでは建物の寿命が延びるわけではないので、修繕費用を確保しておく必要がある。新築の場合、コンパクトになり、維持管理費用も減り、今後10年間のランニングコストを考えた場合、改修パターン1と2の差額約2億円・年平均約2,000万円は、ペイできると考える。

(矢野委員)

そう考えると、修繕費用がかからないパターン2の方が、将来的に繰越金が増えるのではないかと。

(事務局)

試算できていないが、ランニングコストを考慮した場合、将来的にはそうなるだろう。

(板谷委員長)

風の影響などあるが、建築物の扱いについて専門家としてどう思うか。

(米澤委員)

老朽化の問題やメンテナンス費用の問題について、どこの施設も、判断を先送りしている状況である。1と2のどちらに決定しても間違いではないので、改修案が2つあっても良いのではないか。また、風対策として、競走を中止するほどの風にまで耐えられるようにするのかどうか。個人的にはそこまで神経質にならなくても良いと思う。

(板谷委員長)

アマチュアリズムの面から意見を伺いたい。

(七條委員)

アマチュア競技には風の影響はない。走路はスポーツ振興のため確保してほしい。

(石川委員)

耐震した建物は、筋交いが入るため外観上醜い。この規模の耐震について、イメージが湧かないので、どのような影響があるのか伺いたい。

(米澤委員)

地震で倒壊するのは水平方向の揺れに対する影響であり、それを止めるためには、斜めに引っ張るのが一番効率的である。香川県庁東館のように建物自体に価値があるものであれば、基礎を掘り起こして免震構造をする策もあるが、経費削減の面からも、筋交いが入るのは仕方がない。

(石川委員)

収容人数は変わるのか。

(事務局)

変わらない。

(七條委員)

ナイター照明をするとなると、ミッドナイト競輪は年間開催日数に入るのか。

(事務局)

入る。ミッドナイト競輪を、本場開催するとなると、今の倍である 8 節開催できるようになる。無観客競輪であり、経費もかからず、収支の安定も見込める。なお、今のところ、ナイター競輪を行う予定はない。

(七條委員)

工事期間に来場者が減ることがあるので、場外発売は行ってほしい。

(板谷委員長)

ミッドナイト競輪以外に、例えば民営化などの収支を良くする策はあるのか。

(事務局)

包括委託により、生き残った競輪場もあることから、高松の場合も選択肢の一つにはなる。

(板谷委員長)

改修となった場合、複雑なスケジュールを組む 5 年間は、民間委託はふさわしくないとと思われるが、今後、見直しのトリガーは埋め込むべきであり、5 年後の売上げが想定内であれば構わないが、そうでない場合、15 年間で変化を吸収するためには、二の矢三の矢としての経営改善の準備も行っていくべきである。

(石川委員)

委員長の意見に賛成である。民営化した方が儲かるため、一つの判断基準になると思ったが、民営化するとやめる選択肢が難しくなるため、耐震工事を行う場合、土地の固定資産税分くらいの一般会計に繰入れが可能かどうか、また、リスク率を加味した 15 年間のキャッシュフローを見て判断すれば良いと思う。

競輪はスポーツ面としての素晴らしさとギャンブル性のギャップがあり、施設についても、自分が来たいと思えるものになってほしいが、現状では難しいと思う。

なお、計画に対する実績の評価についても行っていく必要がある。

(板谷委員長)

改修し続けるなら 15 年間は責任を持つべきであり、その間にキャッシュフローを積み増しし、もしやめるといふ選択肢になった場合にも、20 億円が基金に積み立てられていることがあるべき姿であろう。

(西村委員)

保有資産の中の各駐車場の利用状況について、また、改修後も必要になるのか伺いたい。

(事務局)

北駐車場はお客様の駐車場として稼働しているが、第1駐車場は、ほとんど民間に貸出しを行っている。また、第2駐車場は、今年度から社会福祉協議会に半分貸出しを行っている。改修後も現在と同様の利用をする予定である。

(矢野委員)

使用料は徴収しているのか。

(事務局)

徴収している。

(西村委員)

パターン1案と2案で迷っているが、15年スパンで検討する場合、今後をより良くするために3年か5年毎に、改修後に検証する場を持つことが必要であろう。そのことで1年1年がより良くなる。

(板谷委員長)

今後のあり方を検討するのが、我々のミッションであるが、ステアリングを示し、収支を見る。また、企画等の発信力をどうするのか。存廃を検討した競輪場が、結集して中央にアピールするキャンペーンがあっても良い。

(矢野委員)

15年でとっているが、10年で計画し、5年で見直すということか。

(石川委員)

借入を返却するまでとするか、次の改修が必要とするまでの期間で見かである。施設面で考えるなら15年であろう。

(矢野委員)

売上げが減少していたのが、最近増加に転じている。今後も経営努力により、売上げが増加するのであれば、老朽化した施設の改修計画を進めるべきである。

(事務局)

平成29年度の売上げの前年度比は、競輪が100.9%、ボートが111.4%、地方競馬が113.5%であり、競輪は、微増ではあるが4年連続の増加である。高松競輪場も今後、改修する方向に進めば、収支状況に対応した計画を進めていきたい。

(板谷委員長)

提言案及び報告内容について、確認整理

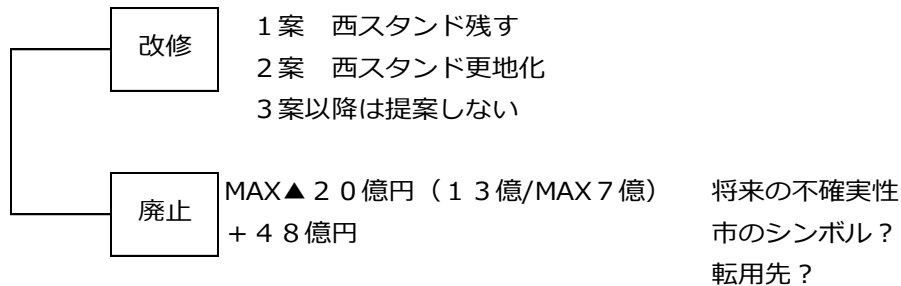
### 提言

- ・遅すぎ イメージ  
小学生が見学に来るような場・アマチュアスポーツの場  
イベント・フードコート・トイレ



- ・今後もステアリング機能（企画・ファイナンス）  
(毎年) 5年・10年・15年

- ・代替案



- ・8月に報告(7月にレビューの場合)

#### 内容

- ・発足の背景
- ・全国の競輪の状況
- ・高松の競輪の状況(現地の視察・改修のポイント)
- ・基準・委員のミッション
- ・代替案・アンケート
- ・収支の概要
- ・提言する案

(板谷委員長)

まず、耐震に対する対応が遅すぎる。今後も毎年、ステアリング機能が必要である。代替案として、改修・廃止とあるが、改修案はパターン1と2までとする。3以降は財政的に返済が厳しいと思われる。

廃止の場合は、解体等に最大約20億円必要だが、土地を売却すれば48億円が見込まれること、そもそも市のシンボルであり、雇用があること、市の方で強いニーズや計画があればジャッジのポイントとなること、また、キャッシュフロー状況を見届けるシステムが必要であるといったことが挙げられる。



(万野委員)

前回の意見にもあったが、小学生の社会見学の間として、利用できるような施設になってほしい。

(石川委員)

北海道のばんえい競馬は家族ぐるみで楽しめるようなイメージがある。競輪もスポーツとしては良いが、競輪場はどちらかというと賭ける施設である。

(板谷委員長)

なるほど。それでは委員の皆さんからの意見も出尽くしたので、これまでの議論をもとに事務局で報告書の素案を準備してもらいたいが、いつ頃になるのか。

(事務局)

検討委員会の立ち上げから最終8月を目途に報告書を作成する予定であったので、7月に報告書の骨子を提示し、8月に最終報告書を市長に提出したいと考えている。

## **(2) 競輪関係者等からの意見聴取について**

各関係団体、傍聴者の方から意見等を求めた。

(公益財団法人JKA 大池氏)

中四国地区にある7競輪場の中で、高松競輪はリーダー的存在であり、高松競輪が廃止となると関係団体として雇用を失うことになる。現在、経済産業省の車両室、(公社)全国競輪施行者協議会、選手会、(公財)JKA等により、競輪振興のための様々な施策について意見集約を行い、実行に移している段階であり、これらの取組を進めていけば、売上げについては、まだまだ伸び代がある。

また、広島競輪については、諮問機関から存続の方向で答申がなされており、高松競輪についても、存続となることを切に願っている。

(一般社団法人日本競輪選手会香川支部 佐々木氏)

高松競輪所属選手は、他のプロスポーツ選手とは異なり、全員が香川県出身であり、また、自転車競技団体等と協力し、地元の様々な自転車に関するイベントに協力している。競輪事業を通じて、今まで市の財政に大きく貢献していること、また、これまで競輪場の改修費用を競輪事業収入で賄ってきたにもかかわらず、耐震を理由に廃止するのは納得できない。廃止となれば、高松市の自転車競技の衰退、ひいては若い人の

夢や目標を奪い、ファンや選手の地元愛を失うことにもなってしまう。このため、高松競輪場の存続を求める嘆願書の署名を集めたところ、約9,600名の署名が集まり、本年4月23日に市に提出したところである。働く職場、練習場が無くなると大変困るので、高松競輪が存続となるよう検討していただきたい。

(香川県自転車競技連盟 出本氏)

香川県自転車競技連盟及び香川県トライアスロン協会の事務局長、また、高松市サイクルスポーツ少年団の団長の立場から述べるが、自転車競技選手にとって、競輪場は必要不可欠である。また、地元の高校生を始め、アマチュア選手は、競輪場が無くなると練習する場所を失うため、競輪場を廃止しないでほしい。また、2022年のインターハイは、高松市で自転車競技が予定されていることから、競輪場が無くなると開催できなくなるので、存続を望むものである。なお、高松トライアスロン大会においても、競輪場を活用している。

(高松競輪ファンクラブ代表 香川氏)

競輪は、高齢者の孤立防止や介護予防に役立っている。高松市は、地域のお年寄りが気軽に集い、交流する、居場所づくり事業を強化しようとしているが、高松競輪場はまさに最適な居場所である。無料の施設で、見知らぬ者同士が会話を楽しみ、頭を使い、推理し、歩くことで、生き生きとした元気で健康なお年寄りを増やすことができ、ひいては介護給付費や医療費の削減などの効果が見込まれる。私の知り合いの90歳になるお年寄りの方も、昨年まで健康維持のため、毎日競輪場に足を運んでいた。高松競輪場は、これからも地域に愛される地域に根差した競輪場になってほしいし、女性や子どもたちが訪れて楽しい競輪場になってもらいたい。

(松崎氏)

これまでの議事録を何度も読み込んでみたが、競輪事業の現状と将来見通し、耐震についてはよく議論されているものの、転用先のイメージを含めた廃止の議論ができていないため、提言にはそのことも含めて書いていただきたい。これは、競輪事業担当が事務局となり、資料を作成し、存続ありきの説明を行うためである。第1回会議において委員からギャンブル依存症の問題について質問が出て、事務局はすぐに話をすり替えてしまったため、話はそこで終了しているが、本件については、改めて専門家を連れてきて議論を行うというのが公正公平なやり方である。

また、廃止する、更地化するには、その後の用途やイメージが明確に

なっていないと誰も議論ができないというのは当然であるが、そもそも関係者の意見聴取や、ギャンブル依存症についての議論は、昨年の秋頃に行っていなければならない。

もし、都市計画の担当が事務局となっていれば、廃止する場合には「カマタマーレを呼ぶ」、「国際規格の250mバンクを残す」、「県立体育館は子ども用又は障害者用の体育館として利用する」、「余った地域には総合的地域スポーツクラブを作っていく」といったアイデアが出ただろう。廃止する場合、「カマタマーレはサッカー専用スタジアムを作りたい」等のアイデアが秋頃に出されて、それを踏まえて、存続の意見、ギャンブル依存症の問題、代替案等を盛り込んだアンケートを行った上で、今年に入ってから提言に向けて議論を行うべきところ、そのような流れになっていないことがとても気になる。

(あすなろ会 鍋谷氏)

多重債務の相談員をしているが、提言の中に検討すべきギャンブル依存症の議論が全くなされていない。報告を延長してでもギャンブル依存症による影響について調査した上で、提言することを期待する。

(市議会議員 植田氏)

アンケートを実施し、初めて競輪事業について市民の意見を聞いたことは良かったと思うが、自由意見の中でギャンブル依存症の意見が多いことに驚いた。競輪事業がこれまで財政的に役割を果たしてきたことは理解するが、自治体が率先してギャンブル施設を運営していることには変わりはないため、公営ギャンブルではなく、将来の子どもたちのために、自転車競技に特化したスポーツ施設にすべきであると考え。本市においては、自転車を活用したまちづくりに向け、様々な施策を行っているが、ここを拠点に施策を展開することは可能だと思う。

もう一つ大事なことは、人口減少社会の中で、本市では、全ての老朽化した公共施設をどうするかということ、存廃を含めて洗いざらい検討しているところである。競輪場は検討委員会があるため対象外となっているが、この視点は重要であり、存続するにしても廃止するにしても、公共施設であるという視点で考えなければならない。

(公益財団法人 J K A 津田氏)

熊本競輪場は震災後、防災機能を有する競輪場として存続再開することになった。

(石川委員)

ギャンブル依存症については調査が必要である。

(板谷委員長)

提言に盛り込みたいが、医学的・社会的な面もあるので、事務局ではなく、学者として私から提言したい。

(矢野委員)

ギャンブル依存症については、本人からの申し出があれば、競輪場への入場を断ることが可能になったと聞いている。あらゆる対策をすれば良いのではないか。

(板谷委員長)

ギャンブル依存症の現状については、パブリック（公開）の範囲になるが、調査したい。

### **(3) その他**

事務局から、最終報告に向けて、今後の日程について提案し、了承を得た。

(閉会)